

## 雲取山山行報告書

(山域) 秩父：雲取山

(コース) 2/11：丹波山村営駐車場～奥多摩小屋～雲取山～雲取山荘

2/12：雲取山荘～雲取山～七ツ石山～七ツ石小屋～丹波山村営駐車場

(日時) 2月11(土曜日)～2月12(日曜日)

(天候) 2/11 晴れのち曇り(弱風)・2/12：快晴(弱風)

(参加者) CL：内堀(記録)・SL：田中・小宮山・木下

(山行タイム)

2/11：駐車場 8:20～雲取避難小屋 13:25～雲取山 14:00～雲取山荘 14:35

2/12：雲取山荘 6:45～雲取山 7:15～七ツ石山 9:00～駐車場 12:00

(山行報告)

2/11

田中車が小宮山家に向かい、田中車を駐車させ木下さんを本千葉付近で拾い、幕張本郷駅にて私を拾って頂き、幕張ICから首都高・八王子ICまで一気に進む。途中渋滞もなくスムーズに流れ、途中コンビニに寄り奥多摩方面と進み、鴨沢まで一気に向かう。鴨沢から細い道を上り丹波山村営駐車場に向かうものの駐車場が無くウロウロして、両サイドの奥中央部に止められそうなので駐車した。両サイドから車が抜けられることを確認。ここでようやく登山準備に取り掛かる。雲一つない天気で青空が眩しすぎる。林道を進み登山口標識を発見して進む。雪は少なく日陰部分に微かにある程度であるため、アイゼン無しで進む。日陰・日当たり部分と交互に表れアイゼンを付けず1時間が過ぎた頃、1本目に休憩を行う。風は微風で穏やかである。

休憩後は更に進むと、七ツ石小屋と巻道の分岐に到着。初めての道のため巻道を選び進むが、意外と人通りが多く、巻道は道幅が狭い。小屋経由の方が楽だったかな？ ようやく七ツ石山先の合流登山道に出られた。ここで2本目の休憩を行う。ここに来ると風の通り道の様で寒さを感じ、手袋や防寒着を着込みだす。ここで急速に手の感覚が変わりアウター用手袋を付ける。

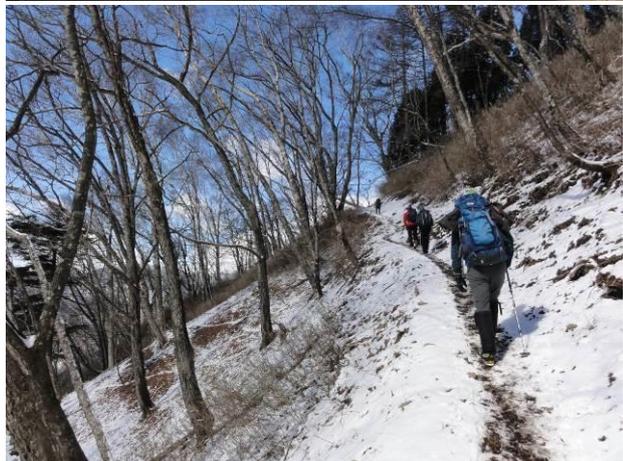
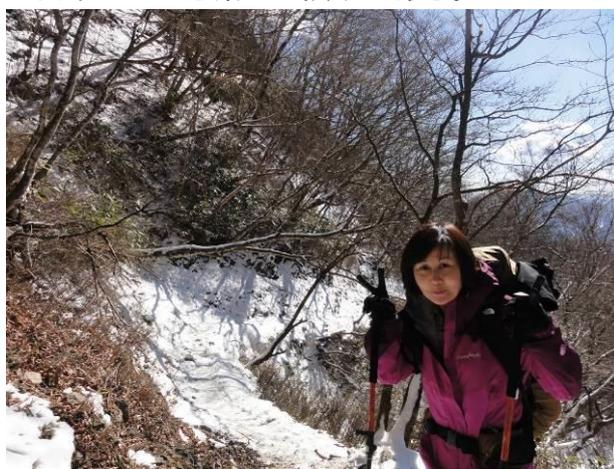
稜線が近づいて来たため風が通り易くなり、体に寒さを感じるようになる。しょうがない、動き出そうと登り始め、10-20分頃経った頃ようやく、体の循環が良くなり寒さが和らいだ。この日雲取山は相当の人達が入っています。人が多いなと思いながら歩いていると奥多摩小屋表れ。トイレ休憩とする。お昼を超えた時点でもテントが3張あった。奥多摩小屋を後にして、最後のひと踏ん張り、小雲取山を目指すものの三角点を発見したが、看板が見当たらなかった。昔あったような記憶、しかし、思い出せずそのままスルーして雲取山を目指す。手前に避難小屋が見える。この頃でも雪は少なく、日当たりの良い場所では無い箇所もある。ノーアイゼンでここまで来てしまった。避難小屋入口は風がない。ここの椅子で昼食休憩を行う。お湯を沸かしラーメンを頬張る。スープが身体に浸み込みホットする。この頃になると富士山は雲の中で下側しか見えなくなっていた。いつの間にか雲がドンドン表れていた様である。昼食後は最後の雲取山に向かう。ほんの少しの距離。山頂では2017年と2017mを掛けた看板があった。雲取山で確認した結果、今年建てて来年には撤去予定だそうです。100名山で次にドッキングする年は2035年になる予定。吾妻山である。18年後であるそこまで登山が出来るか心配である。

山頂の雲取山看板も一新されて初めて見る物であった。コンクリートでガッチリしたものです。少々事では壊れない物を選んだようである。山頂で記念撮影と周りの山の景色を堪能した後、雲取山荘に向かい下山する。こちらは北面のため結構雪がついており、順調に下山すると雲取山荘が出現、予定通りの時間に到着する。玄関を開け入口にて宿泊手配を済ませる。労山カード提出で¥7,000の宿泊費であった。部屋は1-3号室で相部屋。男女二人で来ていた。女性の方は3年で100名山完登した強者であった。部屋では食事の前に持って来た、ビール・ワイン・焼酎を飲み、山談義と木下さんリクエストでザックの中身を全員公開する。パッキング含めこれからの持って行く持ち物が判る手助けになったかも知れません。18:00頃、夕食を食べ満腹で更にお酒を入れる。この部屋の方々には19:00には就寝しました。疲れていたのか？ 年寄か？ 私は早々に就

寝。夜中朝かと思い、トイレに向かうものの、時間は0:00頃であった。中々寝つけなかったが、いつの間にか寝てしまい、朝を迎える。

2/12

早朝4:40私は起床する。他の方々は既に起きていた様であるが、部屋の電気をつけ始動開始。布団を片付け、ザックの荷物を整理して朝食に向かう。食事後はトイレ渋滞があり少し待ってから、トイレ・ハミガキを済ませ、出発準備する。外に出た時、東京の街明かりと星がとても綺麗であった。やはり、東京の山に来ていたと実感する。昨日宿泊手配した時、記念バッチを頂いた。2017m/2017年の記念配布かもしれないね。登山靴・スパッツを付け小屋の外で軽アイゼンを装着。まだ寒いね。全員用意出来た所で遅い出発して、雲取山を目指す。寒さの影響で雪の上を歩くと「きゅう・きゅう」と音がする。アイゼンも良く効いている。あつと言う間に雲取山に到着する。昨日と違い遠くの山々が良く見えている。雲一つ無い富士山・南アルプスの山々・近くを見ると大菩薩・丹沢山塊が目に入る。寒いが景色が良く気持ちがいい。山頂ではかなりの人達で込み合っている。記念撮影後は避難小屋に向い、田中さんが木下さんに地図とコンパスの使い方をレクチャーしている。寒いので早々に出発して、下山開始。富士山を右側に見ながら稜線沿いを進む。七ツ石山分岐（直登・巻道）で直登を迷わず選び登る。山頂は雲取山と同じ看板が付け変わっていた。大々的に行われたようである。七ツ石山では風が強く、休憩もせず七ツ石小屋を目指し、ここで休憩する。最後の富士山を長い間眺めていた。アイゼンを取りここから一気に下り、駐車場に向かった。心配していた車は無事中央奥にいた。被害もなく一安心。帰りは奥多摩駅近くの「もえぎの湯」で汗を流し、昼食を食べた。中央道も渋滞エリアもなく順調に進み、夕方明るい内に帰葉する。今回、雲取山2017mと2017年の同一であるため、福来たる何か良い事があると思う。今度は2035年吾妻山である。ここまで登山が出来ていたら嬉しい限りである。







以上